

研究の目的

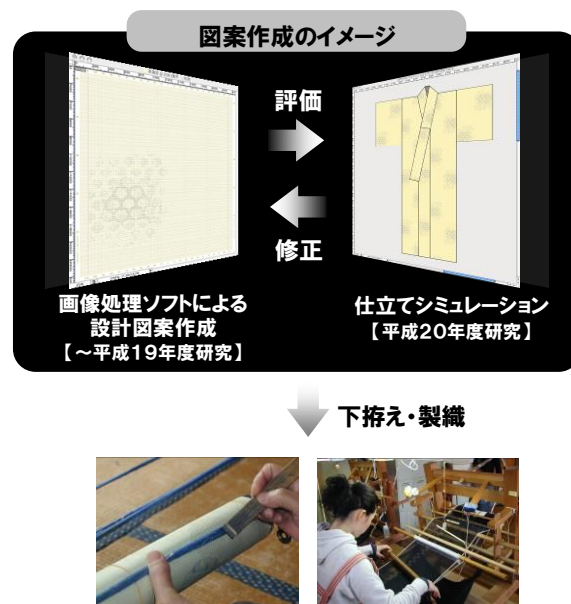
【背景】

結城紬の柄は一定の幅（約 1 尺）の柄を繰り返し使い構成するので、必要な幅の図案だけ作成する。その時、次の問題がある。

- ・図案がイメージ通りの着物になるとは限らない。
- ・コストや製織までの準備時間を考えると、容易に試作ができないため、着物に仕立てたときのデザイン性を評価する方法が無い。

【目的】

より完成度の高いデザインの結城紬を作成するためにも、図案の段階から着物の状態を予測し、図案のデザイン性を評価できる技術の開発を行う。



研究の内容・方法

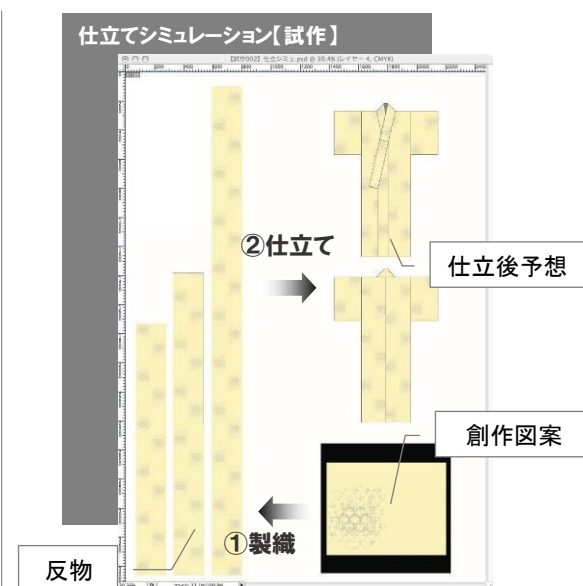
【内容】

以下の画像処理ソフトを利用して、作成した図案から、着物の仕立て上りを自動的にシミュレーションできる技術を開発する。

- ・使用 PC : Macintosh PowerMac G4
- ・使用アプリケーション : Adobe Photoshop 7.0

【方法】

1. 画像処理ソフトを利用して、創作図案から反物の状態を作成する。
2. 1. を基に画像処理ソフトの機能を利用し、一般的な和服の裁断方法から仕立て上がり（追裁）の状態を自動シミュレーションできる技術の開発を行う。



まとめ

【まとめ】

創作図案をもとに、裁断から縫製までの自動シミュレーションを行う工程を検討し、試作を行った。その結果、図案から着物に仕立てた状態を予測できる技術が開発できた。

【今後の予定】

- ・顧客獲得のための販促ツールなど、図案作成以外の使用方法を検討する。（H21 共同研究予定）
- ・PC を使った図案作成（図案高度化、仕立シミュレーション）技術の普及を図る。（H22 講習会開催）

基礎となった事業 平成20年度 試験研究指導費（標準）

担当部門

紬技術部門

主任 小林 哲也

TEL : 0296-33-4154